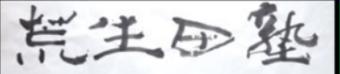




人はなんのために生きるのか

第十回 荒生田塾講演会



若松英輔

批評家・随筆家。

「三田文学」編集長、読売新聞読書委員、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授(2022年3月まで)などを歴任。1968年生まれ、慶應義塾大学文学部仏文科卒業。「100分de名著」、「このころの時代」など、テレビ出演も多く、『イエス伝』、『弱さのちから』など、著作も多数。



若松英輔さん 講演会

2/23 (金・休) 午後2時～ (30分前開場)

申込不要・入場無料 (カンパ制)

駐車場はありません。交通機関をご利用ください。

YouTubeでのライブ配信も行います。

<https://youtube.com/live/3redFOVtSuE>



「べてるの家」の
“向谷地生良”さんもゲスト登壇！
若松さん・奥田牧師との三者トークも。

奥田知志

滋賀県大津市出身。NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀」に2度取り上げられ、著作も多数。



2/25 (日) 午前11時～

特別礼拝

講師: 奥田知志 牧師

(当教会牧師・NPO法人「抱樸」理事長)

3月31日(日) 11時～ イースター主日礼拝

メッセージ: 奥田 知志 牧師

イースターとは、イエス・キリストの復活を記念する、キリスト教で一番大事な祝日です。聖書が語る希望の言葉を共に聞きましょう。

(2020年コロナ禍で語られたイースターメッセージも収録、説教集『ユダよ、帰れ』好評発売中！現在第3刷。キリスト教書店大賞2022受賞)



イブ燭火礼拝・新年礼拝の宣教動画のご案内

毎週の礼拝で語られている宣教は、YouTubeの「東八幡教会一星の下」チャンネル(<https://www.youtube.com/c/hoshinoshita>)でいつでも視聴することができます。その中でも、最近の人気の宣教動画を2つ、ご紹介いたします。ぜひ一度、実際にインターネットを開いてご視聴ください！



2023年
クリスマス
メッセージ

東八幡
キリスト教会
2023
12/24
クリスマス礼拝
燭火礼拝

宣教:奥田知志

その道34年、奥田牧師の、ガザとイスラエルの戦禍に苦しむ人が垣間見える、灯りを落とした礼拝堂で語られた渾身のクリスマスメッセージ。

<https://youtu.be/Jo13UdH-hyQ>
QRコード(スマホのカメラで読み取れます)→



悪魔の時は
短くても
—みこころが
地に
なさせたまえ

東八幡
キリスト教会
2024
01/01
元旦礼拝

宣教:奥田知志

マタイによる福音書 6章 10節, ヨハネ黙示録 12章 7-12節

“毎年元旦は奥田先生の宣教でスタートだっ！！”
“奥田牧師の宣教がないと今年を始められないわ♪”
笑いあり、涙ありの干支にちなんだ宣教です！

<https://youtu.be/80B0ofpCg2M>
QRコード→



「避難所の誕生日ケーキ —能登半島地震の被災地で」
牧師 エッセイ
牧師 奥田知志

元日の午後四時過ぎ震度7の地震が能登地方を襲った。家屋の倒壊、津波ですでに二百人以上の方が亡くなり、災害関連死の危険が高まっている。突然の苦難に見舞われた方々のことを思い祈る。

東日本大震災の時、私が代表をしている「ホームレス支援全国ネットワーク」、「グリーンコープ生協」、「生活クラブ生協」の三者が協働し「公益財団法人共生地域創造財団」を立ち上げた。現在も現地にスタッフを置き被災者支援と共生地域創造に向けた活動を行っている。財団の活動理念は、①最も小さくされた人に偏った支援を行う。「公益財団」のだから偏った支援はいかがか」との意見もあつたが現場は常に偏らざるを得ない。「出会った事実」を大切に「出会った責任」を考える。行政の働きは平等性が問われるが民間は常に「偏りながら」やっていく。②起業と移譲。災害発生後、多くの団体が現地に入る。ある程度落ち着いた時点で大半は引き上げていく。財団の目的は「共生地域創造」にあるので当初からその地に留まり「起業」、つまり地域の社会資源を起ち上げ、それを地域に移譲するのだ。十年以上かかったが岩手県に財団から生まれた三つの団体が活動を継続している。その後も熊本震災、豪雨災害など頻発する災害にできる限り関わってきた。

私も先週現地に入った。支援体制を整えるためだ。金沢市内のキリスト教会の協力を得て事務局の開設と宿泊場所が確保できた。グリーンコープは早々に物資と運搬用の車両を準備。生活クラブからの物資も次々に到着している。物資の拠点を担ったのは北陸学院。以前講演に伺った縁でここ数年、抱樸や東八幡教会が修学旅行先となっている学校だ。今回も早々に連絡をいただき協働が始まった。財団、グリーンコープ、抱樸からの派遣スタッフが日々の活動に当たっている。

グリーンコープのスタッフからの報告に涙した。「避難生活をされている方のニーズに基づいて必要とされる物資を届けるようにしています。先日の出来事です(中略)避難されている小学生のお子さんを待つお母さんから『明日、娘が誕生日なのでケーキが必要です、そんなことは無理ですよね』と言われましたので、翌日避難所にお子さん全員分のケーキを届けました」。注文に合わせて配送することは生協の仕組みそのものだ。それを被災地で実現させる。これは東日本の時に財団が実施したスタイル。被災地では現場のニーズと関係なく支援物資が全国から届くことが多い。だから財団スタイルは大変喜ばれた。

さらに「ケーキの意味」である。単にケーキが食べたいということではない。主食の確保もままならない避難所ではお菓子の入手が困難であることは事実だ。だがそういうことではない。「娘の誕生日のケーキ」なのだ。発災後「それどころではない」という思いが広がる。現に誰か命を落としてもおかしくない状況だった。しかし娘は生きています。この「生きています」という事実、「誕生日を迎えたという喜び」がこの状況において何よりも大切なのだ。それを娘と喜ぶことが出来る。この意味は大きい。現場のスタッフが出会った責任を果そうとしている。本当にすばらしく頭が下がります。

被害は深刻だ。先が見えない。しかし「誕生日ケーキ」を大事にする活動を続けたい。



定例集会

- ・主日礼拝 毎週日曜 午前11時
- ・子ども礼拝(小学生以下) 毎週日曜 午前10時
- ・少年少女会(中高生会) 毎週日曜 礼拝後
- ・聖書の学びとお祈りの会 毎週水曜 午後7時30分

〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40 電話/FAX:093(651)6669
Email:higashiyahata.ch.1955@nifty.com ホームページ:「東八幡キリスト教会」で検索
星の下 YouTubeチャンネル:「星の下 YouTubeチャンネル」で検索

牧師:奥田知志 石橋 誠一 / 協働牧師:藤田 英彦 森松 長生

教会HP

星の下